

Title	パレスチナ巡遊記(下)
Sub Title	
Author	占部, 百太郎(Urabe, Hyakutaro)
Publisher	三田史学会
Publication year	1930
Jtitle	史学 Vol.9, No.4 (1930. 12) ,p.89(621)- 105(637)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19301200-0089

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

パレスチナ巡遊記 (下)

九月廿五日晴。目を覺ませば既に七時半だ。昨日長途の自動車旅行に疲れて、思はず寝過ぎたのだ。九時前ドラゴマンはホテルのサロンに待受けてゐる。匆々仕度して、オマールのモスクを見る可く、ホテルを出かくる。

ゼルサレムはパレスチナの首府である。ローマは七丘の上に立てゐるが、ゼルサレムは四つの丘——その中には有名なる Mount Zion もある——の上に建てられた都市である。イギリスから派遣せられた委任統治の High Commissioner の官廳も茲に在る。キリスト教の教會、回々教のモスク、病院その他の慈善的造營物、學校、大學、ホテルその他公共的建物が櫛比して建つてゐる。バザールの規模は可なり大きいが、歐米人のクォーターは餘り廣くない。京都のやうな保守的の都で、商業

は、左ほゞ活潑でない。ゼルサレムが世界的に有名なるは、基督の遺骸を葬つた場處として、西洋歴史の上に重大なる意義と關係を有するからであること云ふ迄もない。

一九二二年の國勢調査に據れば、ゼルサレムの人口六萬二千五百七十八人で、その中、猶太人が三萬三千九百七十一人、基督教徒が一萬四千六百九十九人、回々教徒がムール人、蘇丹人その他を含めて一萬三千四百十三人（アラビヤ人がその大多數たること勿論だ）と云ふことになつてゐる。ゼルサレムは基督教徒に取つて大本山であると均しく、回々教徒の爲にも、メッカやメディナに劣らない程の靈場である。全世界の回々教徒が、一生に一度の『メッカ參詣』を念願すると殆ど同一程度でゼルサレム巡禮を志望するのである。茲に歴史の

皮肉がある。僕が下文に説かんとする猶太人とアラビヤ人との衝突の原因も茲に在るのだ。所謂ザイオニスト運動の困難も茲に在るのだ。エルサレムの歴史を血腥いものたらしめ、パレスチナ問題の解決を困難ならしめた他の原因に、是等の回々の教徒を多年支配してゐた土耳其人がある。併しその土耳其人は世界大戦に獨逸側に味方した爲、今は聖地一帯から掃蕩せられて、多少這般の問題は簡單になつて來て居る。而も土耳其人が去つても、アラビヤ人がオマールのモスクを信仰の本山として、エルサレムに頑張つてゐる限り、ザイオニスト運動の難關は打開せられぬであらう。

オマールのモスク

吾等は非常に雜沓するバザールを通り抜けて、Mosque of Omar に詣でた。この回教堂は回教國王オマールに捧ぐる可く、一二一六年 Chihâb ed Din の建設に繋る。東の方この回教堂に隣つて、希臘正信派の Monastery of Gethsemane が立つて

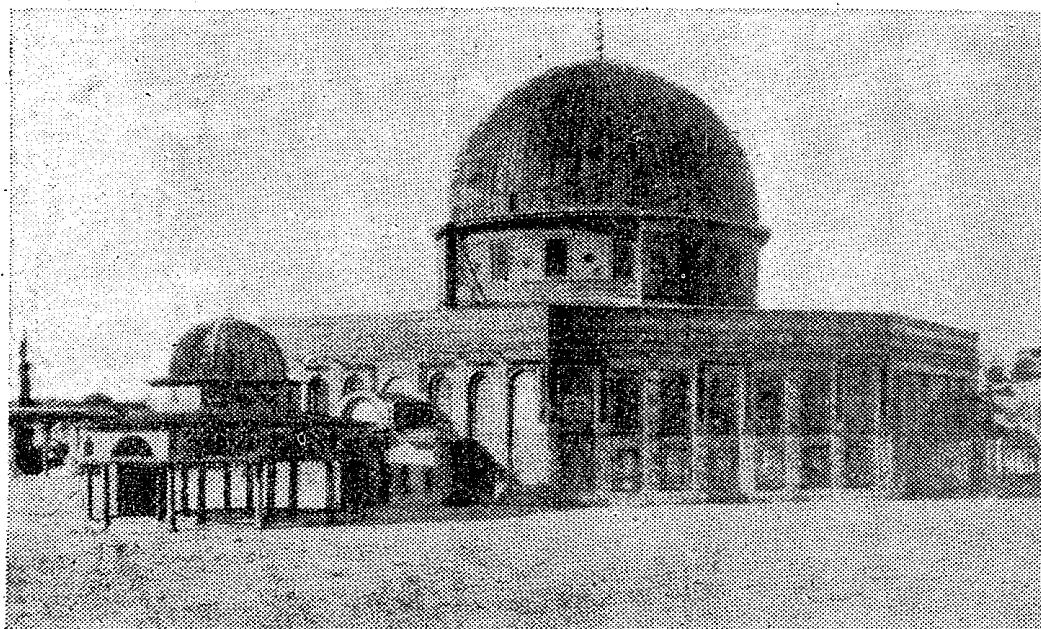
ゐる。是等の建物は Muristan と呼ばれる正方形の十四町歩もある廣場の北西方にある。今は白い石を敷き詰めたこの高臺に、ソロモン王が榮華を極めた殿堂も建てられてゐたであらうと云ふことである。オマールの回教堂は八角形で、その中央に新月の金冠を戴いた圓塔が高く碧空に聳へてゐる。吾等は例の如く、大きな靴のカヴァーをはめさせられて、内に這入ると、グラス張りの窓を通して、大きな岩を認むる。これは往昔犠牲を神に捧げた場處だと云ふことだ。今は中に這入つて見ることは許されてゐない。モザイクも絨氈も人目を奪ふものがある。次に廣場を通つて Alqsa Mosque を見た。スリッパを抜いで、堂から出ようとするとき、乞丐の子が蒼蠅く例のバクシインを強請るので、何ビヤスターかを遣つたことの外何の印象も残つてゐない。夫れから、廣大な構内を一周すると Cypress の木々が矗々と天を指して、暑さに疲れた吾等に木蔭を恵んで呉れる。Cypress と云ふのは、一種の檜だ。最後に、嘗てはサラディンの住宅に充てられたと云はるる御殿を眺めて正

午一先づホテルに歸つた。

ベスレヘム

同日三時茶の後、自動車
ベスレヘムに驅る。十數分
目的地に達する。ベスレヘム
は橄欖樹繁る石灰石の丘陵の
上に立つ一小市である。崖下
の豊饒なる谷間には小麥等が
耕作せらるる。人口約六千七
百人で、主として基督教徒で
ある。住民は農業と、巡禮に
賣りつけるトリンケット其他
の土産物の製造業に従事して
ゐる。

市の東端には大小の教會が
要塞のやうに、密集して建つ
てゐる。その中には、所謂 Church of the Nativity
も、それに接續するラテン派、希臘正信派、アル



メニヤ派教會と共に建つてゐる。Church of the

Nativity とは、申す迄もなく、
基督誕生寺のことだ。

誕生寺は世界に於ける最も
古い寺院の一つである。現に
唱歌席^{コイア}の地下なる洞窟内に於
ける、基督が誕生した馬槽の
現場と傳へられてゐる場處は
紀元二世紀に Justin Martyr
が指摘したのである。而して
Origen と云ふ人も、ベスレヘ
ムに基督が産れた洞窟と、そ
の洞窟内に於ける馬槽を見る
ことが出来る」云々と記して
ゐる。その後の沿革に就ては、
管々しいから省略するが、何
れにしても、基督がナザレに
生れずして、ベスレヘムで呱
々^{ウウ}の聲を揚げたことは、千八百年間多數の併も權
威ある基督研究者の主張し來つたところである。

吾等は例の如く、各自蠟燭を携へ、修道僧に案内せられて、廿呎の地下なる洞窟に下つて、基督の産れた馬槽の跡を實地目撃した。洞は高さ卅呎幅十一呎で、壁は伊太利大理石で縁とつた石疊みである。而して種々のランプや、尊者の肖像や、縫箔や其他で裝飾せられてゐる。洞窟の東方、聖壇の下に、銀製の星がペーヴメントの凹所に嵌められてゐる。これが基督の産れた場所を示したものだ、言ひ傳へられてゐる。この銀星の周圍に HIC DE VIRGINE MARIA JESUS CHRISTUS NATUSEST. と刻んである。夫れから、各宗派に屬する教會も、夫れぐ一巡した。併し茲に特記す可き何等の印象も残つてゐない。ベスレヘムには、クリスマスの折、世界各国から、基督信徒が參籠するので、數個の立派なホテルがある。五時半ゼルサレムのホテルに歸つた。

ホーリー・セパルカー
聖 墓

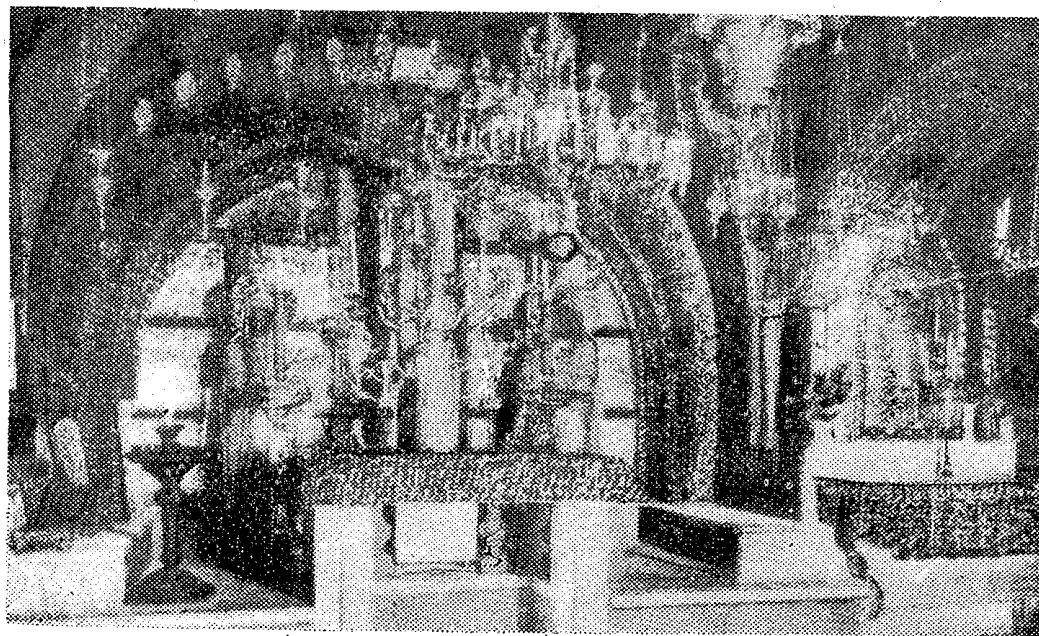
九月廿六日晴。九時半ドラゴマンに案内せられ

て、Church of the Holy Sepulchre に詣でた。猶太町を通つて、メダルや、十字架や、基督及び聖母の像などを售る商店の櫛比した狭い路次を抜けると、高い建物に圍まれた廣場に出る。吾等はそこの入口から這入つたが、これは南口である。中に這入ると、直ちに Stone of Uncion に達する。基督の死體が十字架から取り卸されて、膏を塗られた場所だと云ふことだ。白大理石の臺石があつて、その上に眞鍮の燈籠が幾つか吊るされてゐる。この臺石は目下ラテン教會に屬してゐるけれど、アルメニヤ、希臘、コプト諸宗派も、その上に燈籠を吊るす權利を有つてゐると云ふことである。次に左に折れて、大きな圓塔の下に達する。Rotunda of the Sepulchre である。恰も其時ラテン教派僧侶の祈禱最中であつた。讚美歌の合唱は一種莊嚴の感を懷かしむる。次に吾等は Chapel of the Holy Sepulchre に達する。この禮拜堂の内に、大理石の棺がある。ジョセフとニコデマスとが、基督の死體をその中に納めた實際の墓だと云ふことである。それは四十三個の常燈籠によつて、絶えず

照らされてゐる。左の壁に尺徑くらゐの孔がある。

聖靈の火が出るところだと云ふ。この禮拜堂に高く十字架上の基督の額が掲げられ、蠟燭が點つてゐる。

夫れから吾等は希臘派會堂の横手から十數段の階段を上つて、薄暗い石造の二階に達した。其處が基督が十字架に懸けられたカルブリーの遺跡だと示された。其處にも實物大の基督の像が蠟燭の光りに照らされてゐる。それから基督の像と並んで、聖母マリアの硝子箱入りの像がある。世界各國の帝王富豪から贈られた紅白紫綠色さまざまの寶石寶玉の數々、金銀を鏤めた首飾、耳飾、腕飾、指輪、勳章がところ狭さまで陳列せられてゐる。



カルブリー

最後に吾等は例の如く蠟燭を手にして、希臘派

會堂の背部から十數段の石階を下ると、可なり廣い地下室に達する。此處にコンスタンチン大帝の母君ヘレナが掘り出した多分基督のものであつたらうと云はるる十字架と、ヘレナの像が安置してある。

露西亞人の發掘事業

Holy Sepulchreを辭して、吾等は其處から程近い露西亞の發掘場所に案内せられた。

この露西亞人發掘の起原は遠く一八四四年に遡る。當時の普魯士領事が Temple of the Resurrection から約五十呎を隔てた場所で、殘柱並に古代の城壁の遺趾を發掘したことを報告した。この極めて興味深い考

古學上の發見は、痛く當時に於ける世界の著名なる考古學者の注意を惹いた。そこで、殘柱の發見せられた附近の發掘が始まつて、結局二つの異つた時代に屬する二つの記念物が發見せられたのである。その第一は二本の柱と一個のアーチであつて、——その第二は相互に垂直した二個の城壁である。一八八三年ゼルサレムに於ける露西亞の宣教師アントナインが發掘事業を繼續し、既に發見せられた記念物に對して、種々考古學上の研究を積み、更に發掘したのが、上記のアーチや柱の基礎を成す岩であつた。アーチの二本の柱の中、北方の分はコリント式で、南方の分はビザンツ式である。夫れから、二個の城壁は一層古い時代に建てられたやうに見ゆる。尙ほ東側に於て、二本の柱が發掘せられてゐる。發掘事業は目下この程度で進行中である。

是等の發掘の場處が、恰も Holy Sepulchre の御墓とカルワリイとに接近してゐるから、——御墓とカルワリイとの場所は確定的のものとして即今、是等の發掘物と前記の史蹟との間に如何な

る關係があるかと云ふ問題が、考古學者の前に提供せられてゐる。

猶太人の祈禱處

吾等は發掘物を縱覽して、次に狭い小路を幾曲りして、猶太人の Wailing Place に達した。Wailing Place と云ふのは、猶太人の哀泣して祈禱する場所の事である。西側には低い壁があり、東側には Wall of the Temple と呼ばれる猶太人がこれに向つて祈禱する高い壁がある。その壁の下層は長さ十五呎高さ三呎—四呎の石灰石によつて積み重ねられ、上層となるに従つて、小さい石が積まれてゐる。最下層の巨石の中に、長さ十六半呎幅十三呎のものもある。この有名なる壁の長さ五十二ヤード、高さ五十九呎である。古代の事は不明だが、ローマ時代に修繕せられ、後アラビヤ人が上層の石を積んださうである。

餘程古い時代から、この壁は猶太人が彼等の同胞の没落を哀傷する象徴となつてゐた。ところが

近代になつて、この習慣は禁止されてゐたのだが、
英國人サー・セーゼス・モントフィオルが土耳其皇

か、ゴールドン將軍の發掘處を訪ふた。清洒な英國
風の別墅の門前に立つて、ドラゴマンがベルを押

帝に請ふて、これを復古せし
めた。猶太人は今、金曜日の
三時―五時の間、玆に集合し
て、依然哀禱してゐるのであ
る。吾等の參詣した日は木曜
日であつたので、默禱する男
女は少數であつた。色とり
／＼のショールで顔を蔽ふた
猶太の婦人や、黒いソフト帽
を被つた眼光の鋭い男子の默
禱する敬虔な態度に接して、
吾等も思はず襟を正さざるを
得なかつた。

ゴールドンの發掘事業

一旦ホテルに歸り、午餐休
憩の後、三時半自動車で、市の何の方向であつた

切りに本國の事を語り合つてゐた。次に自動車を



壁の哭人ヤユ

すと、五十年配の老婦人が出
て來た。來意を通ずると、百
姓の装した英國人の案内者が
代つて遣つて來た。この餘り
廣くない別墅の一角に一八八
〇年代に有名なるゴールドン將
軍の發掘した場所がある。基
督の眞の遺屍は多分玆に葬ら
れたであらうと云ふことだ。
案内人は親切に説明して呉れ
たけれど、既に疲勞した僕の
頭に十分その説明は受け入れ
られなかつた。併も發掘事業
は目下中止せられて以上の説
を確める何等有力なる材料も
擧げられてゐないやうであつ
た。ナイト君は件の英國人と

Kings Tomb に驅つた。これはアッシリア王の遺屍を葬つた處だ。例の如く、蠟燭を點じて地下の洞窟内に下りて踏査したけれど、今は何の記憶も残つてゐない。

勿々に同處を辭して、最後に Mount Olive を訪ふた。この丘陵から眺望すれば、ジェサレム市の風景は一眸の下に集まる。夕日が橄欖の葉陰に沒する光景はなか／＼他に見られない絶景である。茲に基督が昇天した紀念の教會がある。最早僕は疲れて、その塔に上つて眺望する氣になれなかつた。ナイト君夫妻も上らなかつた。矢張り疲れたのであらう。其處から數町行くと、世界大戰に戦死した英國兵士の墓地がある。白い石灰石から成る四千何百と云ふ墓碑が、整然として波のやうに列んでゐる。掃除も好く行届いてゐる。小さな禮拜堂も立つてゐる。ナイト君夫妻は連りに番僧と語つてゐた。僕はその間門口で涼を納れた。聽て此處を辭して、五時半ホテルに歸つた。昨夜猶太人とアラビヤ人との間に大學の門前とかで、一場の争闘があつて、英國兵士が猶太人に向つて發砲

して、漸く鎮つたどドラゴマンは話した。アラビヤ人對猶太人問題は未だ全然鎮定して居らぬのだ。

聖母の墓地

九月二十七日晴。九時自動車でゼリコに向ふ。駛ること十數分にして、自動車は昨日訪ねた橄欖山の附近なる唯ある庭園の前に駐つた。Garden of Gethsemane である。近年ラテン教徒によつて園を施こされたこの庭園は、約三分の一エーカーの小庭園で、その周圍には漆喰の壁が廻らされてゐる。この境内に於ける橄欖樹の三四本は非常な時代ものであるが、多分基督が此處に隱遁してゐた時その庭園にあつた根幹から芽をふいたものであらうと云はれてゐる。園丁が其一葉をはりつけた紙を記念として吾等に呉れた。近年發掘せられた三世紀乃至四世紀の教會の基礎の上に、フランシスコ派の教徒が新たに教會を建立しつゝある。吾等はゼリコ海道を辿つて丘陵を少し降ると、

右側に聖母マリアに捧げられた教會に達する。傳説に據ると、此處が即ち使徒等が基督の母を葬つた場處だと云ふ墓は四世紀に初めて記録せられ、教會は六世紀に記録せられてゐる。現在の教會は國王 Baldwin II. の娘 Millicent が建てたのだが、一一八七年ラテン人から奪つて希臘教徒に譲られた。兎に角世界に於ける最古の基督教會だと主張せられてゐる。而して現在アルメニヤ、ラテン希臘三教派の共有に屬してゐる。

吾等は例の如く蠟燭を手にして、基督が十字架にかけられた前夕祈禱をした所謂 Grotto of the Agony に下りた。茲にも各派から寄進した燈籠や金銀の肖像が處狭さまで展列せられ、燦爛として人目を奪ふ。聖母の徳望の如何に偉大なるかを思はしむるものがある、

死海とジョルダン河

吾等は再び自動車に還る。自動車は崎嶇羊腸たる赭禿山の間を驀進する。約一時間も進んだとき

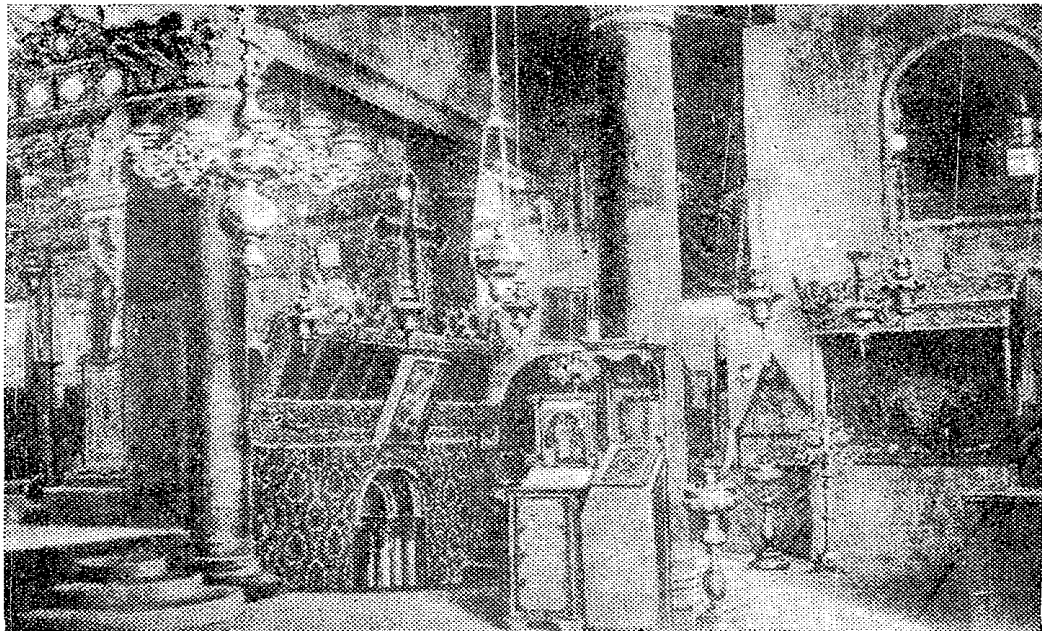
右手に榜示杭が立つてゐる。其處が海面と同一水準だと書いてあつた。其處から漸次下り坂となる。いよ／＼下つていよ／＼熱氣加はり、而も埃塵烟の如く立ち昇つて、その不愉快さつたらない。尙ほ十數分谷道を進むと、いよ／＼ゼリコの平野は展開せられた。ゼリコの平原にかゝると、自動車は右折して、蘆荻の茂つた泥地の間を驅つて進む。今一度右折すると、右手に一大湖水が、吾等の眼前に展開せられる。死海である。

Dead Sea は地球の表面に於ける最も驚く可き記録せられた現象の一個である。併し驚く可きとは雖も、この奇妙なる特象に對する理由に至つては、立派に説明せらるるのだ。死海は多年探險家や科學者の研究の題目に供せられた結果、その地理學的地位も、その周邊も、その廣さ深さ温度もこれに注ぐ諸川の速度も悉皆決定せられてゐる。

南北の最長距離が四十六哩で、東西の最長距離が九哩半である。南方に向ふ程多少幅が廣がつて行く傾向があつて、長い雨季の後には、年々哩數が異なるとのことである。その幅員が約四百平方哩あ

つて、その水深が一千〇八十呎である。而して地中海の水準より一千三百呎低い。リンチ中尉のこの鹽水湖に關するもつと進んだ研究の結果が公にせられてゐるけれど、管々しいから茲に紹介することを割愛した。

死海は Sea of the Plain とか、Salt Sea とか、聖書の隨處に見はれてゐる。猶太の傳經 Talmud の中に Sea of Sodom と記されてゐるのも、Tosephus の Lake Asphaltites と記されてゐるのも、均しくこの死海のことだ。死海の名の起原は、この湖水に關して、太古以來屢々恐ろしい物語がいろいろ傳へられてゐるからだ。アラビヤ人はこれを *Yahr-Lit* と呼ぶ。Sea of Lot の意義である。Lot は自己及びその家族の



ベスレヘム・キリスト誕生寺

爲に、この湖邊に家を立てた。ところが四人の國王對五人の國王の戦争が此處で戦はれた。「鹽水湖である Siddim の谷……Siddim の谷には、沈泥の陷穽が澤山ある。而してソドムとゴモラアの兩國王は敗北して、陷穽に陥つた。」而して Lot は捕虜となつたと、創世記に見ゆる。この類の傳説から、死海の名が起つたのだと云ふことだ。

吾等の自動車は死海の水際に駐つた。其處に葦簾張りの掛茶屋が二三軒ある。其の一を選んで休憩する。ナイト君はパンツ一つになつて水泳した。自分にもしきりに泳げと勧めたけれど、疲勞を思ふて、水に這入らなかつた。僕はナイト夫人とソーダ水を飲んでゐる中に、蓄音機はアラビヤの俗謠を吹

奏する。死海には四五隻の輕舟が、帆に風を孕ませて駛走してゐる。容易に見られない風景だと思つた。

夫れから自動車は少し右に曲つて、ジョルダンの下流に沿ふた古い草葺の掛茶屋に著いた。

ジョルダン河はパレスチナの最大河である。源をガリレイ湖に發して、流ること六十哩にして、死海に注ぐ。併し非常に曲折又曲折してゐるので、實際の延長は凡そ二百哩もあらうと云ふことだ。殆ど全體の流れを通じて、藤や柳や檉柳タマリスの藪が蔽ひかぶさつてゐる。川幅は六十呎乃至一百呎で、水深五呎乃至十二呎である。下流に近づく程、水が濁つて、これでは巡禮が罪の身を淨めることは

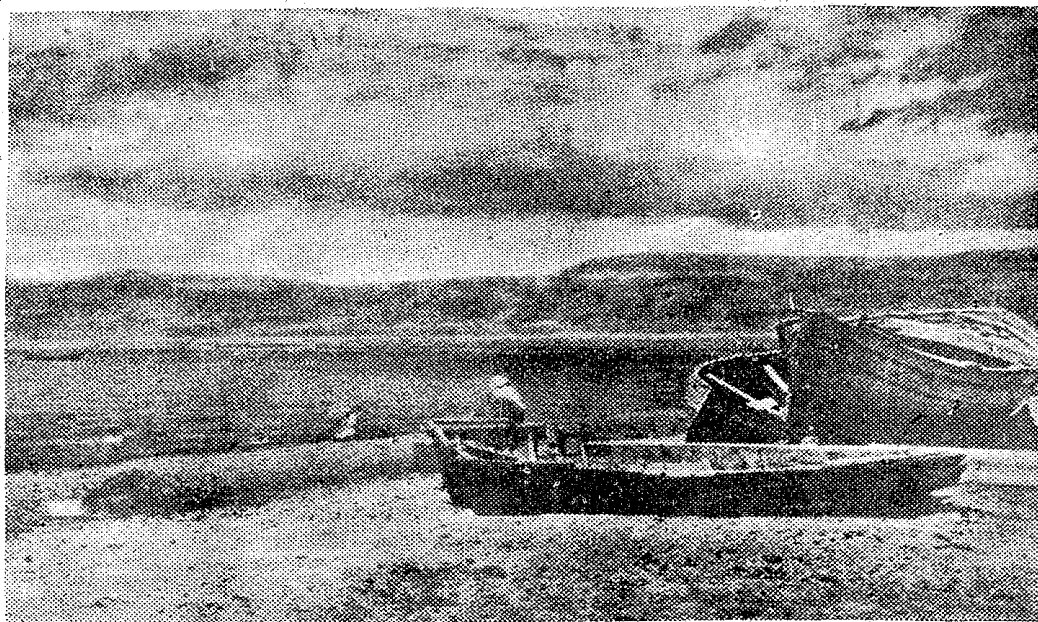
出来まいと思はるる。吾等も一寸河淵に下りて、形ばかり手を洗つた。

吾等は匆々に茲を辭して、自動車はジョルダン河が雨期に氾濫する泥深い五哩の路をガタピシと駛つて、十二時少し過ぎ、ゼリコの町のバレスホテルに著いた。

ゼリコ

死 海

ゼリコ(アラビヤ人はEl-Jerichoと呼ぶ)は昔のカナン人の重要な都市の在つた所で、カナンに移住したイスラエル人が最初に攻略したジョルダン河以西の最初の町である。爾後いろ／＼の歴史を経て、結局土耳其古の配下に歸したこと



舊約にも新約にも、この地に關する記事は頗る豊富であるけれど、茲にはこれを擧げない。

近代のゼリコは約一千人の人口を有する寂しい町に過ぎない。水平より八百呎低いので、夏季の

暑熱は實に耐え難

い。吾等の茲を訪ふ

たのは、九月下旬で

あつたが、自動車の

窓から吹き込む熱風

は、僕の未だ曾て經

験したことのない暑

さであつた。この暑

熱のお蔭で、ゼリコ

には、椰子樹や鳳仙

花や、林檎や、オレ

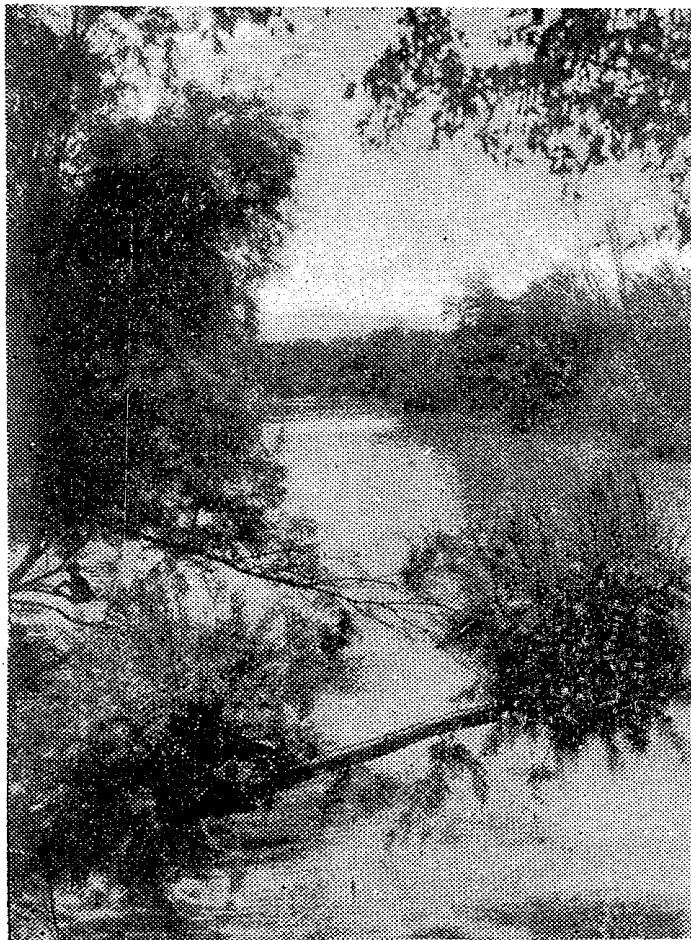
ンデ等が鬱蒼として繁茂してゐる。太古のイスラ

エル人は City of Palms と記し、輓近の猶太の史

家も、a divine region 又は 'fattest of Judaea' と

稱してゐるが、正にその通りである。希臘人や羅

馬人も、棗椰子の實や鳳仙花を廣く世界に販賣し



ジ ヨ ル ダ ン 河

て、一種の財源に充てゝゐたと云ふことである。吾等はホテルで午餐。相客は全くなく、淋しいことだ。少時別室で休憩の後、先づゼリコ町の水道を觀た。其處にはプールがあつて、土地の子供

が十數人泳いでゐ

た。吾等はその水に

涼したラムネを飲ん

で渴を醫した。夫れ

から水道の眞上に於

ける獨逸人の發掘し

つゝある古代ゼリコ

の遺跡を踏査した。

發掘事業は中止せら

れて居り、併も茲に

紹介するに足る何等

の成績も擧つてゐないやうであつた。何にせよ、

暑さと疲れとで、勿々ホテルに歸る。少時午睡を

しやうと試みたけれど、暑さで迎も眠ることは出

來ない。三時二十分歸途に著いたが、熱風と西日

が窓から襲ふたには弱らされた。五時過セルサレ

ムのホテルに歸り著いた。

Tabernacle とソロモンのフル

九月廿八日晴。九時半ガイドに案内せられて、Mount Zion に徒歩した。ザイオン門一名 David Gate を通ると、其處に一つの寺がある。アラビヤ人が彼等にとつても祖先と稱する David に捧げた教會である。この教會に詣でたけれど、茲に記すべき何の印象も残つてゐない。次に聖母マリアの臨終の地に立てられたと謂はるる寺に詣でた。一八九六年獨逸の廢帝ウィリアムがパレスチナ訪問の砌これを買収して、茲に獨逸の教會を立てた。内部の裝飾は完成せられないまま放置してあるが、ババリア國王やケルン市から寄附した禮拜堂がある。實に金銀寶玉を縷めて、莊麗目を奪ふものがある。カイザーが到る處、その巨大なる足跡を印してゐるには、驚嘆せざるを得なかつた。次に吾等はバザールを通つて、古猶太歴代の殿堂の模型を見た。ブラック建の内に Tabernacle と

歴代の Temple の模型が、巡禮の縦覽に供せられてゐる。Tabernacle と云ふのは、イスラエル民族が曠野を彷徨する際にも、常にこれを携へたところの、神がモーゼに示された雛形に基いて造つた幕屋のことである。ソロモン王の時、この模型に據つて、エルサレムの Mount Moriah に建てられた殿堂が、前に記した Mosque of Omar の前身であるが、ソロモンの殿堂と、オマルの圓塔との間に、その地位には大なる變化はなかつたにせよ、建物の様式、大小、裝飾等に幾多の變遷のあつたことは勿論である。獨逸のウルテンベルヒの Dr. Barut C. Schick と云ふ學者が、多年エルサレムに在つて、種々の文献や地理や發掘物やから研究を重ねて、是等の Tabernacle や殿堂の實物通りなる模型を造り上げた。それは一八八〇年頃の事である。看守の一學者は、吾等に向つて、英語で親切に説明し、且年代によつて異なる殿堂の模型を一つはめたり、はづしたりして見せて呉れた。世界の諸大學から、歴史研究の資料として注文を受くるが、最近にも、米國のコロンビア大學とハーヴァ

ト大學から注文があつたと語つてゐた。我が日本の大學の西洋史研究は未だ其處まで進んでゐないやうだ。十一時半歸宿。今日の午後は何の旅程もないので、ホテルで休息。

九月廿九日晴。今日は日曜だけれども、これもパレスチナの古都であるヘブロンを訪ふ筈であつたけれど、同都はアラビヤ人と猶太人との紛争が激烈で、未だに戒嚴令が布かれて、市内には容易に這入り難いとの狀報があつたので、已むを得ず、同地行を見合はせた。クックのゼルサレム支店では、正直にヘブロン往復の自動車代十七志六片を返戻して來た。僕は連日の觀光で、少なからず疲勞してゐたので、ホテルの自室に閉ぢ籠つて、新約の「ルカ傳」などを讀み耽つた。

九月三十日晴。九時半自動車で Pools of Solyma に向ふ。ベスレヘムを左に見て、右折するところ約三哩、其處に大小三つのプールがある。下段の水溜は長さ五百八十二呎、幅東端二百七呎、西端百四十八呎水深東端五十呎である。中段の水溜は下段の夫れより二百四十呎高く、その長さ四百

二十三呎、東端の幅二百五十呎、西端の幅百六十呎、水深東端三十九呎である。上段の水溜は中段の夫れよりも、更に百六十呎高く、長さ三百八十呎、幅東端二百三十六呎、西端二百二十九呎、水深西端二十五呎である。是等の水溜は多分猶太王國の繁昌してゐた早い時代に築かれたものであらう。その後羅馬の代官ピラトの時に修繕せられ、土耳其時代に及んだものだと云ふ。近年その中の二大貯水池はゼルサレム市の貯水池とする計畫が完成せられた。即ち唧筒で此處の貯水池から、ゼルサレムの水槽に注がするのである。而して「ソロモンの水溜」の名は、舊約の『傳道書』中に「また水の塘池をつくりて樹木の生茂れる林に其より水を灌がしめたり」云々とあるソロモン王の言に因んだものであらう。英國の兵士が嚴重に警戒して、何人も貯水池の構内に這入ることを許されない。又貯水池と道路を隔てた左側に土耳其の英主サラディンの要塞の殘垣斷礎がある。其城壁の下で、アラビヤ婦人がその培養した葡萄や林檎等を售つてゐた。吾等は十時半ゼルサレムのホテルに歸つた。

夫れから、更に今一度 Holy Sepulchre の寺に詣でた。

Zionist の運動

これで吾等のゼルサレム見物は一通り終つた。明日はいよいよ埃及に向つて出發するので、ドラゴマンは告別のティーパーティーを催して吾等を招待した。彼の宅はジャッファ門外の街頭から一段低い處に立つた清洒な洋風の家である。ホテルからは五六分で達する。六時半ナイト君夫妻と共に、同家を訪ふと、家を舉げて歓迎する。隣家のこれも通譯を業とするアラビヤ人と、その細君で英佛語を操る婦人も接待役として招かれてゐた。ドラゴマンの細君も母堂も外國語を操らぬが、何れも氣品の高い女性である。珈琲やウィスキーなど饗應せられた。而して話題は自からアラビヤ人對猶太人の紛争問題に及んだ。

ドラゴマンは肅然たる態度でこの事件の最初から語り出した。暴動が八月下旬勃發したとき、ゼ

ルサレムだけでも、五百人餘の死傷者を出した。パレスチナの各地に於ても、夫れ／＼死傷者は何百を以て數へられた。自分はアラビヤ人だけれど、常に猶太人の經營するホテルに出入するので、同胞の間に悪くまれてゐたので、身上の危険を思つて、數日間自宅の地下室に潜伏してゐたが、隙を狙つて、ゼルサレムから脱走して、自分が英語の教育を受けたベイルートに避難してゐた。其後英國が直ちに出兵して、幸に戦争は避けられたけれど、戒嚴令が今尙ほパレスチナ各地に布かれてゐる。自分もベイルートから歸つて來たけれど、騷擾は今でも全然鎮定したのではない。現に昨夜も兩民族の間に鬭争があつて、猶太人が十數人殺傷されたと言つて、彼の話を結んだ。夫れから、隣家の主人は、アラビヤ人特有の慷慨激越な口調の英語で、連りに英國政府の無方針——英國官憲のアラビヤ人に對する偏頗な背信な態度を痛罵した。

少しく講釋めくが、僕は茲にこの問題の起因に就て述ぶることを許して戴かねばならぬ。

この問題の主なる起因は、十九世紀の終末に始つた所謂 Zionist Movement に在る。一八九六年 Dr. Herze は一つのパンフレットを公布して、パレスチナに猶太人の自治的國家を建設すべきことを主張した。云ふ迄もなく、太古以來世界各地に放浪して、家國を持たない——虐げられ、賤められ、憎惡せられてゐる猶太人を、彼等の故國パレスチナに復歸せしめて、自分等の手で、茲に幸福な社會を建設せしめやうと云ふ趣意である。その趣意は勿論立派であるが、一面に於ては、アンチ・セミチズムの結果と見られないこともなかつた。それで正信派の猶太教徒はこれに反對してゐた。併し大體に於て、世界各地の猶太人はこの運動に賛成して、爾後着々この運動は實際化して來た。一九〇三年英國政府は、英領東アフリカの地を提供せんとしたが、それには猶太人が賛成しなかつた。

ところが、世界大戰は、この運動をして長足の進歩を遂げしめた。土耳其を籠絡して聖地一圓に勢力を揮つてゐた獨逸は、土耳其が聯合軍と戦つ

て敗退したので、その勢力を失墜して了つた。聯合軍が獨土を相手として戦ふに際し、英國政府はアラビヤ人の武勇に長けたるを奇貨措くべしとして、聯合側に味方せしめた。而して戦捷した場合には、パレスチナに於けるアラビヤ人に自治を許す約束を與へた。茲に對猶太人問題の禍因が宿つてゐたのだ。ところが、一方に於て、一九一七年十一月二日當時の英國外相バルフォアは猶太人出身たるロスチャイルド男に當てて、『陛下の政府はパレスチナに於て、猶太人の爲に National Home を建設することに賛意を表し、而して其目的の遂行を進むべく最善の努力を致す可し』云々の約束を與へ、その末文に於て、現にパレスチナに於ける非猶太人社會の民政的並に宗教的權利に對して何等の損害を蒙らすことなかる可しと述べて居る。國際聯盟からパレスチナの統治を委任せられた英國政府には、勿論アラビヤ人に對する公約も Zionist Movement に與へた約束も、實現せしめなければならぬ義務がある。ところが National Home と云ふ語は、政治學上の新術語であつて、その語

の範圍も意義も頗る漠然としてゐる。バルフォア宣言が如何なる意義をこの新術語に與へてゐるか、それは不明だけれど、この語が猶太人の國家を意味しない、又安全に意味することの出来ないことは、全く明瞭だ。何となれば、猶太人の手に主權を與へた猶太の國家としてパレスチナを認むることは、巴里會議に於て立てられた委任統治の根本主義となつてゐる民族自決の主義の明白なる否認を意味するからである。即今パレスチナには八十万足らずの人口があるが、其の中唯八萬人——十分の一——だけが猶太人であつて、爾餘の大多數はアラビヤ人だ。アラビヤ人は絶対にZionismの目的に反對してゐる。彼等は現にパレスチナを自分等の國土と考へてゐる。若し多數が何等かの權利を有つとしたならば、世界は彼等の主張を尊敬せねばならぬ。彼等はバルフォア宣言を以て、英國の商賣と英帝國の膨脹とを利益するの見地から、而して猶太人の世界的財界に於ける勢力とを考慮した英國爲政家の仕事だと看做してゐる。彼等は何故彼等が這般英國爲政家の考慮の犠牲に供せら

れなければならぬかの理由を見るに苦んでゐる。猶太人の國民主義があるやうに、又英吉利の帝國主義があるやうに、アラビヤ人にも國民的向上心がある。パレスチナの狭い邦土の裡に、是等の利害一致しない三民族が仲好く生活することの出来るや否やは、大なる問題であらねばならぬ。加之激しい衝突を惹起す可き材料は十分にある。英國政府が兩民族の間に立つて、如何にこれを取扱ふ可きかが、問題として殘されてゐる。

兎に角英國の兵力で、アラビヤ人の暴動は一時鎮壓せられてゐる。併しアラビヤ人の國民的不平は些かも慰撫せられて居らぬから、何時暴動が再發するか測られぬ状態に在つた。今にして思へば、吾等は際分危険の巷に足を踏み入れてゐたわけだ。併し一夜を過ごせば、パレスチナを去つて埃及に入るのだから、最早大丈夫だと思つて、安心した。ドラゴマンが最後の日まで、ゼルサレムの内實の危険状態を留保して、その真相を吾等に秘めて呉れた同情心を難有いことだと思つて、吾等三人は七時半同家を辭して、ホテルに歸つた。

占部百太郎